



7月保健だより

令和6年6月28日発行
社会福祉法人 青梅みどり福祉会
かすみ保育園

《夏に起こりやすい病気》

とびひ

虫刺されや湿疹などで傷ついた肌を汚れた爪でひっかくと傷口に細菌が感染して「とびひ（化膿性濃化疹）」になります。「傷がジュクジュクしている」「なかなか傷が治らない」というのが、とびひの始まりのサイン。やがて痒みの強い水泡ができて、これを掻き壊した手で他の所をかくと、とびひがどんどん広がります。

《対処法》

- ◎患部をガーゼで覆いましょう
- ◎酷くならないうちに病院受診をしましょう

あせも

おでこや肘、首の周りなど汗がたまりやすく、皮膚がこすれる場所にできます。アトピー性皮膚炎のある子は、症状が悪化することがあるので注意しましょう。

《対処法》

- ◎吸湿性の良い木綿の肌着を着る
- ◎汗をかいたら着替える。タオルで拭く、シャワーで流すなど常に肌を清潔にしましょう
- ◎薄着が基本

手足口病

手のひら、足の裏、口の中に発疹や水ぼうがができます。痛みや痒みを伴い発熱します。口内炎が悪化して食欲が落ちたり、まれに髄膜炎などの合併症を起こしたりすることもあるので、注意が必要です。回復後も飛沫や鼻汁からは1～2週間、便からは数日から数か月間、ウイルスが排出されます。

《対処法》

- ◎感染力が強く何度もかかる可能性があります

プール熱

プールでの感染が多くみられることから、プール熱と呼ばれ夏風邪の一つです。アデノウイルスが原因で突然の高熱、咽頭炎、結膜炎の症状が見られます。また下痢や嘔吐、頭痛などの症状が伴うこともあります。

《対処法》

- ◎症状が治まっても便にウイルスが排泄されます
- ◎結膜炎症状がある場合は家族間でのタオルの共有は避けましょう

ヘルパンギーナ

喉の奥に水泡が出来て、高熱が出ます。水疱がつぶれると痛みが出て、食欲も落ちます。汗と高熱で脱水症状を起こしやすく、まれに髄膜炎などの合併症を起こすことがあります。

《対処法》

- ◎脱水症状に気を付け、こまめに水分補給をしましょう
- ◎のどの痛みがある時は食べやすいものにしましょう

虫刺され

夏になると虫や蚊が多く発生します。虫よけスプレーやシールなどの使用や皮膚を覆うような服装をすることも多くなる為、熱中症に注意が必要です。虫に刺されたら、痒み止めを塗り、患部を冷やすことが効果的です。また、掻き傷から、とびひにならないよう皮膚を清潔にすることも大切です。

「幼児クラスでの歯磨き指導」

歯科衛生士さんとの3つのお約束

- ① 寝る前に歯磨きをしましょう
- ② おやつは時間を決めて食べましょう
- ③ 好き嫌いをせず何でも食べましょう

約束を守って虫歯を作らないようにしましょう！！

- 歯磨きをした後のうがいは1回にしましょう
- 8～9歳までは仕上げ歯磨きが必要です
- 年齢にあった歯ブラシを使用しましょう



7月の予定

- 1日（月）身体測定
- 3日（水）乳児検診

6月の感染症の報告は、溶連菌感染症が3名でした。メールでの感染症報告時、幼児・乳児と表記してお伝えしていましたが、早めに感染対策を取りやすい、病院受診時に伝えたいとの保護者の意見が多く聞かれた為、クラス名での表記に変更しました。

7月からプールが始まります。手足口病・ヘルパンギーナに感染した場合、数週間から数か月間は便からウイルスが排泄されます。登園後7日間は感染予防の為、プールは中止しシャワー浴のみの実施になります。